



文化芸術で地域とつながる

おたすけ BOOK

住民とともに取り組む
文化拠点の魅力活力UP

住民参画型事業って？

住民参画型事業とは、文化施設が行う自主事業のなかで地域住民と一緒に企画し、実施する事業のことです。地域の文化や伝統行事、暮らしを豊かにする音楽・演劇・映像・デザイン・アートなど、地域住民がやってみたいテーマで企画をつくり、実現に向けて一緒に取り組みます。その手法も、施設を使った発表や鑑賞から展示、体験ワークショップなど、多岐にわたります。文化施設の可能性を広げ、文化芸術の力で人や地域を元気にすることできる事業です。



地域住民と一緒に事業を取り組む効果

近年、コンサート等のオンライン配信等、ライフスタイルの変化などにより文化施設の利用も変化してきており、利用者数の低下や文化芸術活動の担い手不足などの悩みが聞かれるようになってきました。実は住民と一緒に事業に取り組むことで、文化施設が抱える課題の解決につながるかもしれません。

ポイント 1 新しい来館者が期待できる

市民と事業を企画することで、市民自らが事業を告知、発信してくれます。また、これまで来館が少なかった層をターゲットに事業を行うなど、新たな来館者獲得にむけて一緒に企画をすることもできます。

ポイント 2 施設の利用拡大につながる

市民の中には、これまで施設を使ったことがない人もいます。この事業でお試しとして施設を使ってもらうことで、その後の継続的な施設利用につながる可能性があります。

ポイント 3 新たな視点の事業が生まれる

市民と企画すると、思いもしないアイデアが生まれることがあります。施設の空間活用から、事業のジャンルの幅を広げることができます。また、事業を発信することで「新しいことにチャレンジしている施設だな」とPRすることもできます。

このほかにも、「地域団体や教育団体とのつながりができた」「地域の伝統芸能を再開することができた」などの感想も。自分たちだけで行う既存の自主事業より、大変に感じるかもしれません。しかし、得られるものも多いので、ぜひ挑戦してみませんか？

いま、地域や住民とのつながりが重要な理由

これまで、文化施設の役割は、住民の文化芸術活動（鑑賞・参加・創造）を支援するために、鑑賞事業や貸館事業などの「文化芸術振興」だと考えられてきました。しかし、近年の文化施設に求められる役割は拡大しており、「文化芸術を通じた地域振興」も求められています。

役割	文化芸術活動への支援	文化芸術の鑑賞機会の創造・提供		文化芸術のつながり創出	
主な事業	活動支援事業 (貸館)	創造事業 (自主)	鑑賞事業 (自主)	つながり創出 (自主)	つながり×創造 (自主)
	個人・市民団体の文化芸術活動の活動・練習・発表の場を提供するもの	アーティスト等とともに作品を創造・上演するもの	アーティスト等の公演を上演するもの	体験や交流につながる参加型プログラムを実施するもの	住民が事業の企画に参画するもの
施設と住民の関係性	施設 施設貸出 住民 利用者	施設 企画者 住民 鑑賞者	施設 企画者 住民 鑑賞者	施設 企画者 住民 参加者	施設 主催者 住民 主催者であり参加者

貸館 貸館事業 自主 自主事業

住民との協働関係とは

住民との協働で事業を進める場合は、住民は「お客さま」ではありませんし、事業を進める上では主従関係はありません。住民は施設と一緒に企画し、準備をするパートナーです。そのため、対等な関係で話し合いを進めるようこころがけましょう。これは、住民と共創するためのとても重要なポイントです。



さまざまなスタイルの参画事業

住民がどう参画するかもさまざまなパターンがあります。施設側のビジョンや、地域の現状・ニーズに対応し変化させることが可能です。次ページで紹介するモデル事業の実例を参考に、自分の施設にはどのパターンがいいか検討してみましょう。

パターン 1 目標：住民と決める
テーマ：なし
参加してほしい住民：制限なし

パターン 2 目標：施設側で設定
テーマ：施設側で設定
参加してほしい住民：テーマに興味のある個人、団体

パターン 3 目標：施設側で設定
テーマ：なし
参加してほしい住民：若者などターゲット設定

事例から学ぼう! ケーススタディ

令和4～5年の2年にわたって、広島県内の3つの文化施設で、住民参画型モデル事業を実施してきました。施設の課題や、住民参画の方法、参加住民の違いから三者三様の自主事業と効果が生まれています。

CASE 1 ジーベックホール (府中市文化センター)

施設概要 大ホール1,030席、中ホール400席、楽屋、練習室、リハーサル室、展示室、多目的ホール、会議室、和室、
管理機関 株式会社賛興(指定管理)

府中市では、コロナ禍からの文化芸術活動の再開や、これまでなかった団体間、または個人の交流の機会・協働を生み出すきっかけとなった。複数の体験プログラムを実施するイベントでは、施設利用の少ない子育て層の来場機会を生んだ。

抱えていた課題・ニーズ

- コロナ禍で停止した文化芸術活動の再開
- いろんな人に施設をもっと活用してほしい

住民へのアプローチ方法

各回テーマを決めて、関連する団体や個人への声かけと公募し企画

取り組んだ事業

- 1 和太鼓団体が共同制作しての演奏披露会
- 2 ロビーや屋外も活用した、体験型ワークショップ教室の開催
- 3 プロによる楽器指導教室&コンサート

成果やその後の展開

- 団体同士のつながりを生み、自走につながった
- 新たな層への利用拡大につながった
- 芸術活動をしている個人のつながりが生まれた



CASE 2 はつかいち文化ホール ウッドワンさくらびあ

施設概要 大ホール1,095席、小ホール296席、楽屋、練習室(3部屋)、リハーサル室、会議室
管理機関 公益財団法人廿日市市芸術文化進行事業団(指定管理者)

廿日市市では、これまで行事利用での来館だった高校生と、事業を協働することで高校、および高校生とのネットワークを構築。施設での事業の企画や運営協力への継続的な関わりを持つことができた。

抱えていた課題・ニーズ

- 行事利用以外での若者の利用が少ない
- 若い職員に協働事業の経験を積ませたい

住民へのアプローチ方法

対象を若者と設定して声かけ、公募し、集まった高校生と内容を企画

取り組んだ事業

- 1 持ち寄りテーマによる対話イベント
- 2 複数の高校による合同文化祭の実施
- 3 高校生のリクエストによる、プロからの指導やワークショップ体験

成果やその後の展開

- 施設と高校生・学校とのネットワークができた
- 住民との協働事業のノウハウを蓄積できた



CASE 3 せらにしタウンセンター・せら文化センター

施設概要 せらにしタウンセンター|ホール310席、視聴覚室、会議室、機能訓練室、町民ギャラリー、図書館
せら文化センター|ホール710席、図書室、会議室、教育委員会事務所
管理機関 世羅町教育委員会社会教育課(直営)

世羅町では、事業の目標設定から地域住民と検討を重ねたことで、施設職員と住民によるコアメンバー組織の形成、および企画者として参加した中高生とのつながりを生んだ。また、ジャンルを絞らずゼロから企画することで、これまでの枠にとどまらない事業が生まれた。

抱えていた課題・ニーズ

- 文化芸術活動を通して、子どもと大人が協働できる場を提供したい
- 事業ノウハウ・スキル不足

住民へのアプローチ方法

事業に協力してくれるコアメンバーを口コミで声かけ。事業の大枠を考えてから中高生を募集。

取り組んだ事業

- 1 伝統芸能の上映会と交流イベント
- 2 施設を使った中高生企画イベント

成果やその後の展開

- これまで取り組んだことのない事業ができた
- 各施設の特徴を活かした事業の展開
- 中高生や学校とのネットワークができた
- フェーズを重ねることで、施設職員による企画会議の運営、事業の実施支援の経験を積めた



各施設の事業の詳細、および事業実施までのプロセスに興味がある方は、ぜひ広島県公立文化施設ネットワーク「ひろぶんネット」から、事業報告書をご覧ください。
※ひろぶんネットはIDとパスワードを持つネットワーク構成員のみが閲覧できます。

住民参画型事業を実践してみよう

上記3つの事例だけでも、進め方や事業内容、成果がさまざまであることがわかります。住民参画型事業を通して何を達成したいか施設側の将来像(ビジョン)を持ちながら、事業に取り組むことが大切です。では具体的にどのようにスタートし、住民集まってもらい会議を開くか。また、企画したアイデアを事業として実施、ふりかえりをするときどういったことに注意すべきか。次ページ以降では、実際に住民参画事業を進めていくプロセスを紹介し、それぞれのステップでは、活用できるワークシートやチェック項目などが掲載されています。ぜひ同梱されているワークシートなどを活用しながら、自身の施設にあわせて実践してみましょう。



7つのステップではじめる、住民参画事業

地域住民と一緒に事業をやってみよう!そんな思いを実現する方法を、7つのステップでご紹介。自分の地域の現状にあわせて変化させながら実践してみてください。各ステップではモデル事業の時どうだったかもポイントとしてお伝えします。

STEP 1

現状整理・目標設定 はじめるための準備をしよう

まずは、施設の現状や課題、地域ニーズなどから、この事業をどうして実施するのか(目的)、何に取り組むのか(目標)、または実施した後の社会への影響(ビジョン)をもつことが、はじめるための第一歩です。



- ポイント**
- やりたい理由や目標を整理(時には住民に聞き取り調査やアンケートをもとに整理してみる)
 - テーマや、参加してほしい住民を設定するか検討する
 - 開催スケジュールの概要を決める

おたすけツール **現状整理シート** シートを使って地域や課題の整理、目標などを洗い出すことができます。

その時 モデル施設は…

- 廿日市市** 若い世代との協働を目的に設定
- 世羅町** コアメンバーを結成し、目的を共有
- 府中市** 各回テーマを設定

STEP 3

企画会議 01 事業のアイデアを出し合おう

いよいよ住民と事業のアイデアを考えていきます。趣旨説明、参加者の自己紹介などを行い、どんな企画をするかアイデアを出し合ひましょう。事業実施のおおよそのスケジュールを伝えることも大切です。話し合いは付箋やホワイトボードを使い記録し写真や取りまとめた議事録を次回までに共有して各回の会議の間も企画を考えられるようにしましょう。



- ポイント**
- 趣旨とスケジュールを共有
 - 参加者同士のやりたいことを書き出す
 - 参考になりそうな事例を調べておく
 - 話し合いは「yes, and」で!(相手の意見を肯定し、相乗りする)
 - アイデア出しでは意見をまとめすぎない
 - 「やりたい/楽しい」×「目的やビジョン」で考えてみる
 - メーリングリストやSNSグループで結果を共有

その時 モデル施設は…

- 廿日市市** 複数の高校に声をかけ、学校を超えた活動をアイデア出し
- 世羅町** 中高生がやりたいことを考え、大人メンバーがサポート
- 府中市** 参加者の活動の悩みを軸にアイデア出し



STEP 2

住民募集・説明会 参加する仲間を集めよう

住民向けにチラシを配ったり、説明会を開いたりして一緒に事業を進める仲間を募りましょう。次回の企画会議に友人など新たな参加者を連れてきてくれるような、楽しい会にしましょう。



- ポイント**
- 事業の目的や趣旨を明確に伝える
 - 協働事業(上下関係はない)であることを伝える
 - 参加者の想い(やりたいこと、求めていること)や、得意なことなどを聞く
 - お菓子やお茶を準備して、緊張しない空間にする

おたすけツール **別資料住民向けパンフ**

その時 モデル施設は…

- 廿日市市** 他事業に参加経験のある高校生への声かけ
- 世羅町** 事前に学校に説明しチラシを配布
- 府中市** 市民団体への声かけと公募

STEP 4

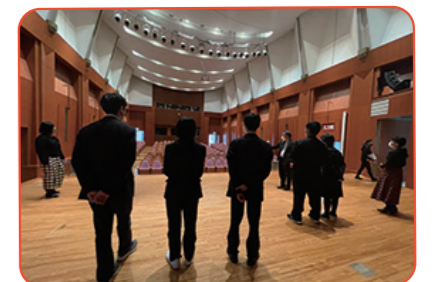
企画会議 02 企画を具体化させよう

たくさん出されたアイデアから、最初に設定した時に設定した目的にあっているか、誰に来て欲しいか明確かなどを確かめながら企画を具体化させましょう。ここで決め切れない場合は、自主会をひらくのも手です

- ポイント**
- 前回出したアイデアから楽しさ、実現可能性等で選んだり、さらにブラッシュアップする。
 - 事業実施日までに準備できるかなども確認
 - 参加住民が「友人や家族を誘いたいのか」が重要

おたすけツール **企画シート**

モデル事業でも会議が盛り上がり自主会を開催していました。オンライン実施、集まっての会議、SNS上でのやりとりなど方法はたくさんあります。住民が一番参加しやすい、企画を決めやすい方法を選びましょう。デッドラインを伝えることも大切です。



STEP 5

企画会議 03 当日に向けた準備をしよう

当日にむけて、住民側と施設側、双方が準備することを確認して進めましょう。当日のタイムテーブルをみんなで改めて把握しておくことも大事です。シミュレーションや発表の練習なども必要に応じて行いましょう。



ポイント

- 実施までの準備に漏れがないか一緒にチェック
- 役割分担に参加者全員が関わっていること
- 広報物（チラシやポスター）の作成はなるべく早く
- 備品が足りない場合は近隣施設や住民にもお願い
- 来場につながる一番の発信方法は「お誘い」
- 人手が足りない時は当日ボランティアを募集しても OK

おたすけツール 4 事前チェックシート

事前に必要な準備などが書かれたチェックリストです。事業によってチェック項目も増やしたり、減らしたりしましょう。

その時
モデル施設は…

- 廿日市市** 当日の運営ボランティアを参加者の口コミで募集
- 世羅町** 事前にリハーサルして流れを確認
- 府中市** 住民がお店へのチラシ配布等情報発信を担当

STEP 7

ふりかえり会 今後にむけてふりかえろう

住民との関係性や実施された事業を、一回限りにするのではなく継続させていくために、事業実施後にみんなでふりかえることがとても重要です。集まって話すのが一番ですが、すぐできない場合は忘れないうちにアンケートで感想や今後への改善点を聞いておくといいでしょう。当日の写真や動画、また来場者のアンケート結果などをみながら、次回以降の方向性や、継続して行うための仕組みも検討しましょう。



その時
モデル施設は…

- 廿日市市** 協力した学校の先生もふりかえりに参加
- 世羅町** ご飯をたべながら、次回について話す
- 府中市** 1年に1回実施するための方法を検討

ポイント

- 共有できるよう、当日の写真やアンケートをまとめておく
- 参加者の感想や改善点を聞きつつ、施設側の感想も伝える
- 同じ事業を続けていく場合はその方法を、違うかたちで行う場合はスケジュールや方向性を共有する
- 事業を続ける方法（施設の主体形成として予算か、補助の検討、参加費から運営資金を捻出）もさまざま。どの形態があうか話し合う



STEP 6

事業実施当日 事業を実施しよう！

当日は施設職員も楽しみながら、事業を実施しましょう。始まる前と終わった後に全員で最終確認や簡単なふりかえりをしておきましょう。



ポイント

- 当日の連絡網をつくっておく（急な変更の共有）
- 施設側は黒子になり住民をサポート
- 写真や動画の撮影を。イベントの表舞台だけでなく、設営や準備などの裏側も記録する
- 当日の実施者、参加者双方のアンケートをとる

スピンオフ！

新たな事業として継続 「ふちゅう和太鼓フェスティバル」

府中市では、コロナ禍で活動が制限され、途切れそうになっている地域の芸能文化に着目し、団体同士の交流や新たな担い手育成につなげることを目的に、「ふちゅう和太鼓フェスティバル」をモデル事業の一環で企画。これまでなかった合同演目にチャレンジしました。

1回目の事業終了後、継続的に行いたいと参加団体から声が上がリ、1年かけて市内の和太鼓団体と文化ホールが準備を進め、翌年に施設の自主事業として開催。新たなゲストやワークショップなども企画しました。



こんなとき
どうする？

困った時のQ&A集



ここでは実際に住民参画型事業を進めるなかで不安に感じたこと、悩んだ点などを一問一答形式で紹介します。

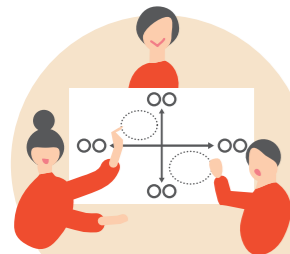
Q. 普段お客様として接しているのに、会議でもつい全て受け入れようとしてしまいます。どのように接するのがよいでしょう？

A. 市民が活動を開始していくためには、雑談と対話が必要です。雑談とは、日常や暮らしの匂いを切り捨てることなく、それぞれの固有の体験や実存に根ざしたさまざまな意味が込められています。そこには単なることばや文字を超える「暮らし」の思想や経験が基盤となっています。**積極的に雑談を取り入れてください。**また対話は、次の3つが満たされていないとできません。①**共通の目標（未来像）を持つ**、②**のびのびと自由に発言できる（否定されない）**、③**どんな人も知恵や経験を共有しあえる**、この対等な対話が市民活動の場ではもっとも必要です。そこから市民自身が自分の中に力があることを発見し、活動していくことができますよ。



Q. 会議で話は盛り上がるんですが、なかなか一つに決まりません。どのように進めたらいいでしょう？

A. 一つに決まらないほど企画が出てくるのは、素晴らしいことです。企画がたくさん出てきた時は、**理想の未来を話し合い、理想の未来に近づけるために、みんなが最もワクワクするものはどれかを問う**といいでしょう。また企画を実施するには、人手や実施までの期間、実現しやすさなどの制約があります。紙とペンを使って、縦軸をワクワク度、横軸を人手の数にするなど、2つの軸を使いながら、実現可能性を探るのも手ですよ。



Q. 市民のアイデアは費用がかかるものが多く、実現が難しいものばかりです…。

A. まず、そのアイデアを**本当にやりたいのか参加者同士で話し合いましょう。**なぜやりたいのか、そのためにどうしてもその経費は必要かをあらためて確認しましょう。また、みんなが市民の周囲には、企画を実現するための資源となる素材やもの、つながりが必ずあります。「**あなたの力を借りたい**」と声に出すことが、**予算の壁を乗り越える第一歩です。人によって報酬とを感じるものは異なります。**頼られることが報酬である人もいれば、感謝されることが報酬である人もいます。**多様な報酬があることを念頭に、周囲の協力者を募りましょう。**お互いさまの気持ちで感謝し合う関係性をつくると、お金では実現できない温かな活動（企画）がうまれてきます。その他の方法としては、不用品の販売などを実施して資金を集める、寄付で集める、必要なものを借りる、無料で使える素材を活用するなどの方法があります。継続的な活動になれば、助成金などに応募するのもアリですね。



Q. せっかく市民が考えた企画。たくさんの人に来て欲しいと思うんですが、何かヒントを！

ポイントは2つあります。

一つ目は、**企画を考えた市民がワクワクしているかどうか。**

ワクワクするような企画であれば、友達、家族、同僚、ご近所さんなど、出会った人にどんどん話したくなるものです。また、そのワクワクが伝わるようなイベント名やチラシのデザインを心がけます。近年は、スマートフォンの無料のアプリでチラシ等を作れるものがたくさんあります。こうしたネーミングやデザインのセンスは、日頃からこつこつと「これいいな」と思ったチラシやネーミングを1箇所に集めておくことが大切です。日々の積み重ねからワクワクを可視化することができます。また予算と似ているのですが、多様な人の力を借りることが、口コミにもなり、結果として集客にもつながっていきます。

二つ目は、**告知期間を十分にとったスケジュールで準備を進めること。**

チラシや告知情報が決まってから最低1ヶ月、可能なら2ヶ月ほどイベント当日まであいていることが理想です。告知期間が十分にあれば、まちの広報誌に掲載したり、ラジオに取り上げてもらったり告知の幅が広がります。

A.



むすびにかえて

広島県では、文化施設が地域の拠点となり、地域とつながった自主事業づくりを応援しています。広島県庁ホームページでのモデル事業の紹介のほか、事業実施にむけて相談したいことなどがあればぜひご連絡ください。



【お問い合わせ】
広島県環境県民局文化芸術課 創造グループ
kanbunka@pref.hiroshima.lg.jp
082-513-2722
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/40/bookdeup.html>

文化芸術で地域とつながるおたすけBOOK
2024年3月発行
発行：広島県環境県民局文化芸術課
編集・デザイン：studio-L